

151300-1 バスリセット酸性
ミッケル化学株式会社

作成日：2022年04月01日
改訂日：2023年11月06日

安全データシート

【1. 化学品及び会社情報】

製品名	バスリセット酸性
会社名	ミッケル化学株式会社
住所	東京都江東区石島2-14
電話番号	03-5633-2520
FAX番号	03-5653-3575
担当部門	研究開発室
緊急連絡電話番号	072-268-1181

【2. 危険有害性の要約】

GHS分類

物理化学的危険性	金属腐食性物質 分類できない
健康有害性	
急性毒性（経口）	区分に該当しない
急性毒性（経皮）	分類できない
急性毒性（吸入：気体）	区分に該当しない
急性毒性（吸入：蒸気）	分類できない
急性毒性（吸入：粉塵およびミスト）	区分に該当しない
皮膚腐食性／刺激性	区分1
眼に対する重篤な損傷／眼刺激性	区分1
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	分類できない
生殖毒性	区分2
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	区分2（呼吸器系）
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	分類できない
誤えん有害性	分類できない
環境有害性	
水生環境有害性（急性）	区分3
水生環境有害性（慢性）	分類できない

GHSラベル要素

絵表示またはシンボル：



注意喚起語：

危険

危険有害性情報：

重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷
生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い
臓器の障害のおそれ（呼吸器系）
水生生物に有害

注意書き

使用前に取扱説明書を入手すること。
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

[予防策]：

粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
取扱い後は手をよく洗うこと。
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

屋外又は換気のよい場所でのみ使用すること。

汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

環境への放出を避けること。

保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

[対 応]： 皮膚（または髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。

皮膚を流水／シャワーで洗うこと。

汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

吸入した場合：

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

直ちに医師に連絡すること。

目に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。

次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は

外すこと。その後も洗浄を続けること。

直ちに医師に連絡すること。

ばく露又はばく露の懸念がある場合：

医師の診断／手当てを受けること。

[保 管]： 施錠して保管すること。

[廃 棄]： 内容物／容器を関連法規制ならびに地方自治体の基準に従い廃棄すること。

【3. 組成、成分情報】

化学物質・混合物の区別	混合物
成分	界面活性剤（ポリオキシエチレンアルキルエーテル 1.4%、他）
	スルファミン酸（6%）
	有機酸
	溶剤
	水

【4. 応急措置】

吸入した場合	直ちに新鮮な空気の場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。 気分が悪いときは医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	直ちに多量の水で十分に洗い流す。 液が付着した衣服や靴は直ちに脱ぐ。 速やかに医師の診断を受ける。手当てが遅れると 炎症を起こす恐れがある。液が付着した衣服や靴は、 よく洗ってから着用する。
眼に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて 容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 その後、すぐに製品または安全データシート（SDS）を 持参して眼科医の診断を受ける。
飲み込んだ場合	直ちに口をすすがせて多量の水を飲ませる。 意識のない場合には、口から何も与えない。 無理に吐かせないで、速やかに医師の診断を受ける。 濃い液を多量に飲み込んだ場合、手当てが遅れると生命にかかわる。

【5. 火災時の措置】

適切な消火剤	この製品自体は燃焼しない。
使ってはならない消火剤	知見なし
特有の消火方法	消火作業は、風上から行う。周囲の設備等に散水して冷却する。 適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

【6. 漏出時の措置】

人体に対する注意事項、 保護具及び緊急時措置	関係者以外の立入りを禁止する。 作業の際には、必ず保護具(ゴム手袋、保護眼鏡、保護衣、 ゴム長靴等)を着用し、眼、皮膚への接触やミストの吸入を避ける。 屋内の場合、作業が終わるまで十分に換気を行う。 多量の場合、人を安全に退避させる。
環境に対する注意事項	環境への放出を避ける事。 大量の水で希釈する場合は、汚染された排水が適切に 処理されずに環境へ流出しないように注意する。 漏出物を直接河川や下水に流してはいけない。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	少量の場合は、吸着剤(おがくず・土・砂・ウエス等)で 吸着させ取り除いた後、残りをウエス、雑巾等によく拭き取る。 多量の場合は、周囲への流出を防止し、安全な場所に導いてから 処理する。酸性の製品なので、必要があればアルカリで中和する。

【7. 取扱い及び保管上の注意】

取扱い	
技術的対策	取扱場所の近くに、緊急時に洗眼及び身体洗浄を行うための 設備を設置する。 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、 保護具を着用する。 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの 取扱いをしてはならない。
局所排気・全体換気 安全取扱い注意事項	換気を良くして使用することが望ましい。 接触、吸入または飲み込んではいない。 取扱い後は手・顔等を十分に洗い、うがいをする。
保管	
安全な保管条件	容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。 施錠して保管すること。 他のものと混同しないように保管する。 容器は直射日光や火気を避けること。
安全な容器包装材料	他の容器に移し替える場合は、当社指定の専用容器を使用する。 (商品名、使用方法、注意事項を明記した専用容器)

【8. ばく露防止及び保護措置】

保護具:	
呼吸器の保護具	マスク
手の保護具	ゴム手袋
目の保護具	保護眼鏡
皮膚及び身体の保護具	保護衣

【9. 物理的及び化学的性質】

物理状態	液体
色	緑色透明
臭い	ごく弱い原料臭
融点・凝固点	データなし
沸点、初留点と沸騰範囲	データなし
可燃性	データなし
燃焼又は爆発範囲の上限／下限	データなし
引火点	データなし
自然発火点	データなし
分解温度	データなし

pH	1未満（原液、25℃）、2～3（1%、25℃）
動粘性率	データなし
溶解性	水と任意の割合で混合
オクタノール／水分配係数	データなし
蒸気圧	データなし
密度及び／又は相対密度	約1.05（20℃）
相対ガス密度	データなし
粒子性状	該当しない

【10. 安定性及び反応性】

反応性	通常の保管及び取り扱いにおいては反応性は低い。
化学的安定性	熱、光に対して比較的安定であるが、直射日光が当たる場所での保管は控える。 衝撃に対しては安定である。
危険有害反応可能性	塩素系漂白剤・次亜塩素酸ナトリウム等と反応して塩素ガスを発生する。アルカリ性物質と反応して発熱する。
避けるべき条件	混触危険物質との接触。
混触危険物質	塩素系漂白剤、次亜塩素酸ナトリウム、アルカリ性物質
危険有害な分解生成物	塩素系漂白剤や次亜塩素酸ナトリウムと反応して塩素ガスを生じる。

【11. 有害性情報】

急性毒性（経口）	データなし
急性毒性（経皮）	データなし
皮膚腐食性／刺激性	データなし
眼に対する重篤な損傷／眼刺激性	データなし
呼吸器感受性	データなし
皮膚感受性	データなし
生殖細胞変異原性	データなし
発がん性	データなし
生殖毒性	データなし
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	データなし
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	データなし
誤えん有害性	データなし

【12. 環境影響情報】

生態毒性	データなし
残留性・分解性	データなし
生体蓄積性	データなし
土壌中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	データなし

【13. 廃棄上の注意】

化学品（残余廃棄物）、当該化学品が付着している汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報	【7. 取扱い及び保管上の注意】を参照する。 使い終わった容器は、よく洗ってから処理する。 内容物/容器は法令/規則に従って適切に廃棄すること。
--	--

【14. 輸送上の注意】

国連番号	3265
国連分類	クラス 8

容器等級	II
航空輸送 等級	2
輸送又は輸送手段に関する特別の 安全対策	直射日光を避け、高温のところに置かない。 運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、 損傷がないよう積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
国内規制	適用法令の定めるところに従う。

【15. 適用法令】

労働安全衛生法第57条第1項の政令で定めるもの

該当しない

特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律で定めるもの

第一種指定化学物質 ポリオキシエチレンアルキルエーテル (2.0%) (管理番号:407)

毒物及び劇物取締法 該当しない

廃棄物の処理及び清掃に関する法律 (特別管理産業廃棄物)

該当しない

有害物質を含有する家庭用品の規則に関する法律

該当しない

化審法 該当しない

消防法 該当しない

【16. その他】

記載内容の問い合わせ先

会社名	ミッケル化学株式会社
住所	東京都江東区石島2-14
担当部門	研究開発室
電話番号	072-268-1181
FAX番号	072-268-1183

記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、危険性、有害性の評価は必ずしも十分ではありませんので、取扱いには十分注意してください。
また、記載事項は通常の取扱いを対象としたものですので、特別な取扱いをする場合には新たに用途・用法に適した安全対策を実施の上、お取扱い願います。
なお、この情報は新しい知見に基づき予告なしに改訂されることがあります。